

蔵本・佐古地区道づくりワークショップでの取り組みについて

四国地方整備局 徳島河川国道事務所 交通対策課 おしまゆりか
尾嶋百合香

1. はじめに

近年、公共事業における計画決定プロセスの段階において、PI(パブリックインボルブメント)手法を積極的に導入することが望まれており、その手法の具体化が各地で模索されている。本事務所では、昨年、管内の「あんしん歩行エリア」の中から蔵本・佐古地区について、PI手法を導入して交通安全施策の検討を行った。本稿は、そこで用いたPI手法を紹介するとともに、今回の取り組みに対する地域住民の評価と手法に対する課題を整理するものである。

2. 対象地区の現況

今回対象とした徳島市蔵本・佐古地区は、徳島駅等の市の中心部から3km程度西の一般国道192号沿いに位置し、住商混在する市街地である(図-1)。当該地区は県内有数の医療施設が立地するため来街交通が多い。しかし、地区内道路は幅員4m未満の箇所も多く、一方通行等の規制が随所に施されている(図-2)。また、地区唯一の幹線道路である一般国道192号は、平日自動車交通量52,276台、自転車歩行者交通量3,712人・台、平日混雑度1.68(H11道路交通センサス)となっており、交通環境の改善が望まれている。

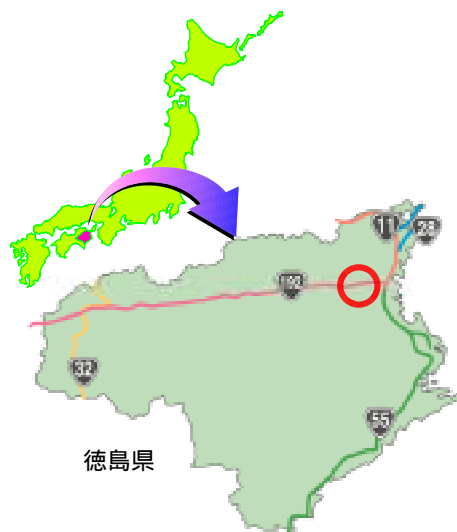


図-1 位置図

地区内の交通事故発生件数は年間100件前後(人身事故)となっており、平成14年の事故発生件数は平成11年の1.4倍に増加している(図-3)。また、地区内の路線別事故割合を見ると直轄国道(一般国道192号)での事故が全体の約80%を占めている(図-4)。



図-2 対象地区

3. 経緯

本地区は、県内で7地区指定されている「あんしん歩行エリア」の1つであり、当地区内の一般国道192号では、電線共同溝事業の実施が控えていたことから、他の地区に先だち「あんしん歩行エリア」の取り組みを行うこととした。

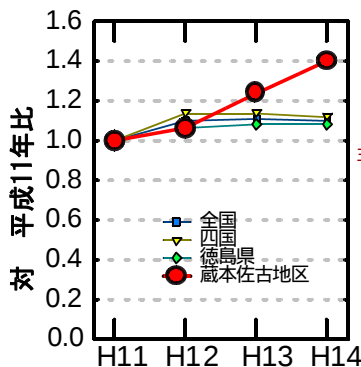


図-3 死傷事故件数の伸び率

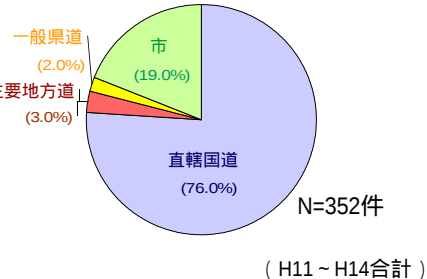


図-4 路線別事故割合

「あんしん歩行エリア」は生活道路も含めた地域の面的な交通安全対策を検討する必要があるため、住民参加により、潜在的な危険箇所(ヒヤリ箇所)の抽出や交通規制等も含めた施策選定を行うことが、有効であると判断した。

4. PI手法について

検討テーマが、「生活道路の交通安全対策」と地区住民にとって非常に身近でわかりやすいものであったため、住民参画のための手法として、

- ・ワークショップ(以下、WS):地区内の交通安全施策を総合的に検討。
- ・ヒヤリアンケート:調査地区内の潜在的な危険箇所把握。
- ・広報:「ホームページ」及び「記者発表」でWSの協議内容を広報。

以上の3つを用いて実施した。

WSは、地区内の自治会長、各行政機関、地区内公的関係機関により構成され(表-1)、関係機関を一同に集め住民からの意見に速やかに回答することとした。また、道路利用者である住民と事業者が自由な意見交換を行い相互理解を深めるため学識経験者を入れずに、直接対話するWSとした(写真-1)。

なお、WSは事故関係について3回、他に本稿では触れていないが、一般国道192号の歩道デザインや街路樹の選定に関する景観について1回、計4回開催した。

ヒヤリアンケート調査では、当地区は、高齢化が進展していることから、地区住民の回答のしやすさを最優先とし、選択式ではなく自由回答形式を採用した(図-5)。

広報は、WSの協議内容を地区内住民に知らせるとともに、住民参画による道づくりの取り組みを他地域の方にも知って頂き、興味を持ってもらうためにホームページと記者発表により行った(図-6)。

表-1 WSのメンバー

1)地区内自治会長	14名
2)行政機関	(道路管理者(国・県・市)、公安委員会)
3)地区内公的機関関係者	(JR、徳島バス、市交通局、 県立中央病院、徳島大学付属病院)



写真-1 WS実施風景



図-5 ヒヤリアンケート調査用紙

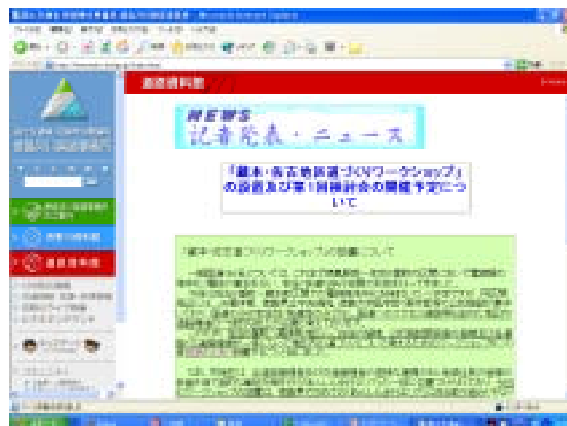


図-6 徳島河川国道事務所HP

WSの流れをまとめると図 - 7 のとおりである。

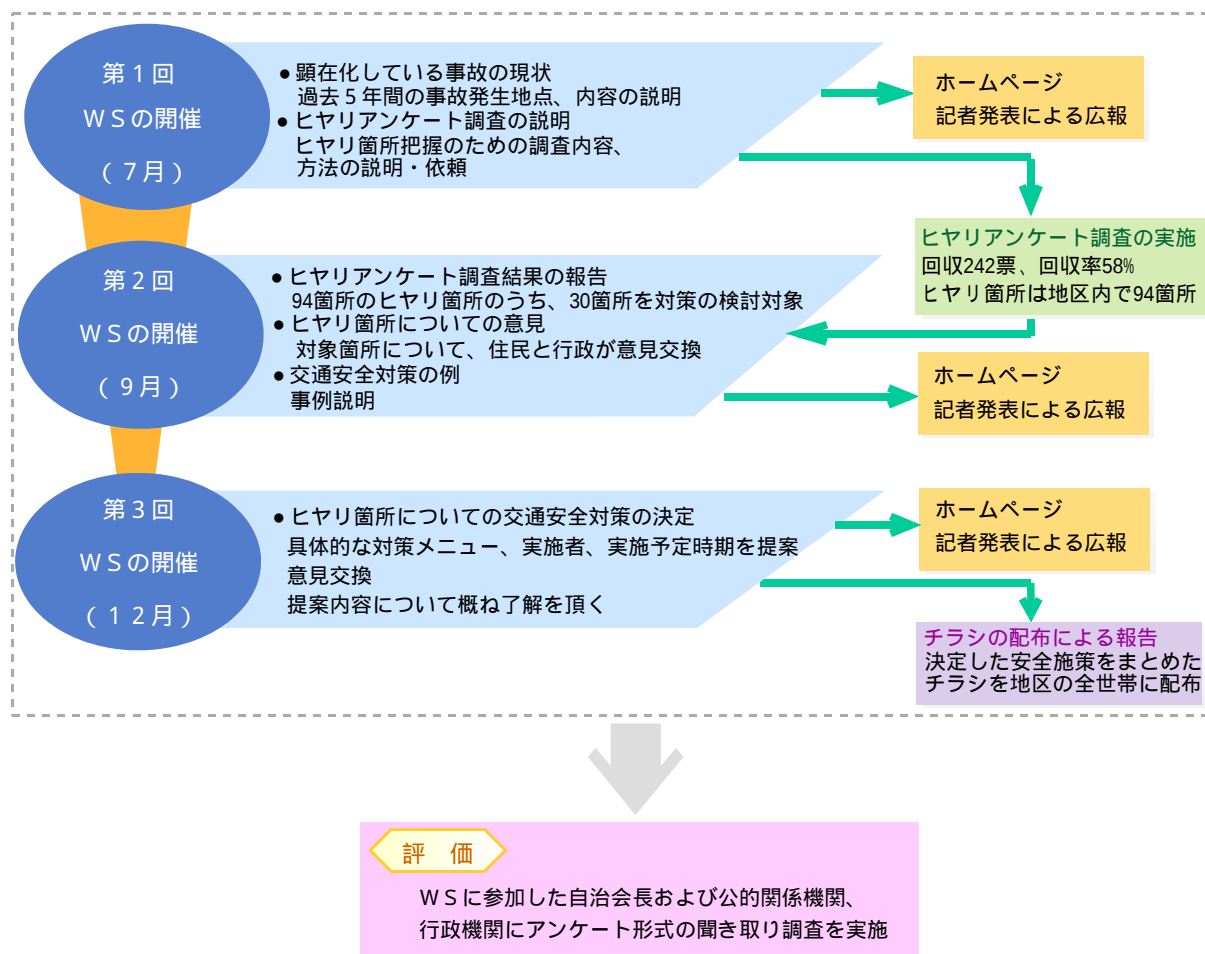


図 - 7 WSの流れ

5. 交通事故対策の一例

WSでまとめた交通事故対策の一例を図 - 8 に示す。住民や関係機関との話し合いにより決定された各箇所の対策内容は、横断歩道部等のカラー舗装化、沿道出入り口部や交差点の明確化等であり、対策可能な箇所は各管理者が連携し2年間以内に完了予定である。

社会保険センター前



図 - 8 対策事例

6. WSの評価

今回実施したWSに対する評価を把握するため、WS終了後、ヒアリングを主体にしたアンケート調査を行った。意見として、

- ・開催回数、開催時間帯、会議時間、資料・情報提供が十分だった。
- ・複数の公的関係機関・行政機関が一同に介し、連携したことがよかった。
- ・以前からあった地域の問題に速やかな解決策を示したことがよかった。

と、高い評価があった一方で、

- ・自治会長以外に直接的な影響を受ける国道沿の住民も参加すべき。

という、批判もあった。アンケート調査から、住民と公的関係機関、行政機関が一体となり地区内の道づくりについて考えたことにより、WSの計画内容についてはほぼ満足を得いたことが確認できた(図 - 9)。

また、本WSは人々の興味・関心を引き新聞や自治会の広報に取り上げられ、この手法が今の時代のニーズにあったもので、住民が公共事業に対して望んでいるスタイルであることが伺われる(図 - 10, 図 - 11)。

7. 今後の課題

WSメンバーは、地区住民代表として、地区の現状に精通し、ある程度地区住民を代表した意見をもっている自治会長14人としたため、利害関係者が参加しておらず、男性ばかりの偏ったメンバー構成となった。利害関係者や女性の視点を盛り込めば、異なる対策案になった可能性がある。今後実施される他の「あんしん歩行エリア」のWSにおいては、メンバー構成について慎重に検討する必要がある。また、対策を実施した箇所については、フォローアップ調査を行い、期待した効果が発現されているかどうか観察、検証し、十分な効果が発現されていない場合は、改善を行う必要がある。

さらに、今回のWSで得た地元住民との信頼関係を維持するためには、対策案を着実に実行することが重要である。そのためには、関係機関との調整などが不要な対策案については、今年度より着手し、概ね2年程度の間で完了させることとしている。

公共事業を住民参画で行う方法は、まだ試行錯誤的で具体的なやり方が確立していない状況である。今回、学識経験者などの第3者が間に入らずに、直接住民と話しを進め相互理解を深めたが、メンバー構成などから公正さについては改善の余地があることが分かった。PI手法が何かということよりも、多くの人が公正と感じる過程を構成・遂行することが重要であると考えている。

